

# 荒れている農地の有効利用に向けた取組事例

## ●農事組合法人が経営規模拡大、戦略作物（麦、大豆）の導入により蘇らせ、地域の活性化を図る！

すえゆき  
(香川県 さぬき市 末行地区 農事組合法人の取組)

### 調査

#### 調査

#### ○地域の現状

本地域は、さぬき市中央部に位置する平坦な、未整備農地（不整形で0.1ha/筆程度）が広がる農村地帯で、第2種兼業農家が大半で、営農は水稲、麦、大豆、野菜などの組み合わせにより行われているが、不在地主等により、荒れている農地が発生し、農地の再生が地域の課題となっていた。

#### ○地域の農地を有効利用することとなった要因

平成16年頃から、地元自治会より環境保全（耕作放棄地の解消）の要請があり、地権者が年1回草刈りを行うなどの管理が行われていたが、環境改善には至らなかった。現状を改善するため、近隣の農事組合法人（「平砕」）に農地を集積し、営農を再開の気運が高まった。



荒れている農地の現状

#### 準備

### 準備

○平成18年頃から平砕集落においても集落営農組織化について、農業用機械の共同購入の話し合いを足がかりとして合意形成を推進。集落のアンケート「平砕集落 集落営農の立ち上げに対する意向調査結果」集落の95%が組織化することについて認識、推進に弾みがついた。

○平成19年6月 農事組合法人「平砕」設立。法人規模は、平成20年産、6ha（作付け面積）から平成22年産10haへ増加（耕作放棄再生地含む。）

○平成21年4月 農事組合法人の経営規模拡大を計画、経営耕地の近傍に新たな農地を確保するため農業委員会へ相談。使用貸借による農地の確保を検討。

### 再生のイメージ

#### ○取組課題

- ・地域の環境保全と併せて荒れている農地の有効利用
- ・営農の確立
- ・農事組合法人の規模拡大

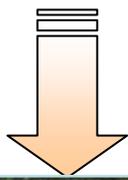
(農事組合法人の作付け面積  
: H22年産 10ha)  
(うち、再生面積 0.9ha)

地域の環境保全  
(自治会)  
近隣住民からの要請

支援  
土地調整

さぬき市  
さぬき市担い手育成  
総合支援協議会  
・耕作放棄地再生利用  
緊急対策の活用

## 再生活動



耕作放棄地再生利用緊急対策（国）を活用（県の再生費用の支援含む）  
（取組主体：農事組合法人「平砕」）

- 平成21年4月～10月農業委員会において耕作放棄地の地権者への働きかけを実施。11月地権者から農地の貸借への同意が得られたことから、農地を再生するに至った。
- 本対策により平成22年2月より再生作業（0.9ha）に取り組むこととなり、3月までに刈り払い・除根・耕起・整地が完了し、平成22年度に、土壌改良（4月）、営農定着を実施。



刈り払い



除根



耕起



除シキ



整地



土壌改良（土壌改良資材施用）

## 利用活動

（活動主体：農事組合法人「平砕」）

- ① 農事組合法人の経営規模拡大のため、麦、大豆を中心に作付けを実施、併せて集落内の不作付地の解消を図る。
- ② 地域の環境保全（自治会活動の一環→周辺地域も含めて環境保全）  
法人設立当初の目的は、地元集落の不作付地の解消であったが、行政からの働きかけにより、周辺地域にも規模拡大して、広い範囲での環境保全に取り組む。
- ③ 取組の特徴  
集落内及び周辺地域の農地を集積し、水稻、麦、大豆の土地利用型作物による営農を展開。なお、さぬき市管内の集落営農組織・集落営農法人等で組織する「さぬき市集落営農法人等協議会」で意見交換を行い、先進組織の技術・手法を取り入れ、今後も作業の共同化を推進。

## （営農）状況



麦の栽培状況



大豆の栽培状況



大豆の収穫状況